布哇へ社員特派

今回帝國軍艦浪速が布哇へ派遣せらるゝに付我時事新報社は社員西師意氏を同艦に乘せて同國に特派したり

移民拒絶事件談判の模樣は勿論、共和國の事情は最も迅速なる方法を以て報道すべし

福翁百話（八十九）

古物の眞相

福澤諭吉

古物古器古書畫骨董の類なれを寶として貴重するは甚だ善し歳月の經過と共に次第に消滅散逸して唯減却するの一方なれば後世子孫たる吾々の義務として永く保存の法を謀り又私には個人の好事に之を弄び自から懷古愛美の心を養ふも亦是れ文明人の事なり咎む可からざるのみか肉慾以上精神の高尚なるものとして視る可きなれども其懷古尚古の情に制せられて遂には事實を忘れ漫に古を美として後世を輕んずるに至りては我輩の服せざる所なり左甚五郎の彫刻は絶妙にして後世の及ぶ所に非ずと云ふも實際は明治年間に第二の甚五郎ある可し弘法大師の書、狩野古法眼の畫、美は即ち美なり妙は即ち妙なりと雖も今日その人なきに非ず或は後世の書家畫工が之を摸せんとして叶はざるは古書畫の巧妙なる所以なりと云はんか決して然らず人間の風韻は時代に從て變遷するの約束にして百年を隔れば百年の差あり千年を去れば千年の違あり晉の王羲之と宋の東坡と唯その書風に差違あるのみにして孰れか巧拙は敢て判斷す可らず況んや今日に於てをや天下の書家が如何に勉强するも王羲之には及ぶ可らず其及ばざるは古人の巧に非ずして其風韻なり平易に云へば流義の相違なり假りに之を逆にして義之に我朝家流の書を所望し東坡に傘提灯の字を書かしめんとするも其需に應ずるみと能はざるは明なり甚だ拙なるに似たれども王羲之の筆東坡必ずしも拙なるに非ず千年の古今流義の相違は如何ともす可らざるなり又或は云く古代の建築工藝は洪大にして巧なりとの說あれども是れ亦取るに足らず大阪の城は見事なるに相違なしと雖も今日に於て為して此種の城の必要を感じて金をさへ投ずれば其工事甚だ難からず木曾川の鐵橋を始めとして諸鐵橋のトンネルなど見れば大阪城の如き入札の技藝を以ちゆして都成す可し奈良の大佛、法隆寺の建物、芝上野日光廟などの成否は唯經費の問題のみ資金に不自由なければ今の技師の手を以て同樣のものを作らしむるの事難からず更らに之を洪大にして更らに精巧ならしめんとするも敢て難せざる所なり以上の立言果して是なれば今人の伎倆古人に劣らざるのみか更らに一歩を進めて後世無窮の改良を期して古人を遮抑して他に其上に出るの事實は高々等ふ可らず千百の歳月を經て如何の感を發すや凡そ他人の作を眞似するには其本人に彷彿たる腦面なきを得ず況して一人能く幾古人の作を僞造して自在なりと云へば多能推して知る可きのみならず技そのの巧妙なるは古書畫なり骨董なり如何にも眞僞を見るに苦しむなり骨董なり骨董なり得たる僞物を見るに苦しむなり骨董なり骨董なり得たる僞物を見るに苦しむなり骨董なり骨董なり得たる僞物